

IBM野洲 解雇問題 昨年9月より裁判闘争中です！

IBM,DTIは森川さん、永井さんの解雇を撤回し、
雇用責任を持て!

IBM野洲は、「モノづくり」から撤退するな！
工業団地化をやめろ！

・YSC、日立GSTへの「移籍」をIBMからの出向に戻せ。

ご意見は、組合ホームページ：<http://www.bekkoame.ne.jp/i/jmiu-ibm> 組合mail：jmiu-ibm@i.bekkoame.ne.jp

労働相談一般は、滋賀県労働組合総連合

(Tel.077-521-2536 Fax.077-521-2534 e-mail：kenroren@mb1.kisweb.ne.jp) までお寄せください。

か が や き

6 号

(2005年 1月27日)

JMIU日本IBM支部
野洲分会

永井君、森川君に対する解雇は許せない

弁護士 野村裕 (野洲市民)



びわこ放送での提訴放映。右より野村先生、永井さん、森川さん

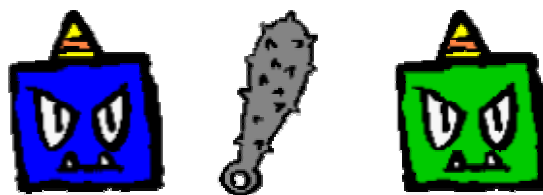
IBMが支配しているディスプレイテクノロジー(株)(以下DTI)は、昨年4月30日、二人が所属している労働組合との団体交渉の席において、両名を解雇するという暴挙にでました。DTIは1989年11月に日本IBMと東芝が対等の出資で設立されたものですが、2001年8月、東芝が撤退することとなり、ついで、DTIの実態はインターナショナルディスプレイテクノロジー(IDTech)に譲渡され、二人をふくめ従業員はIDTechに出向を命じられることとなりました。ところが昨年2月、IBMはDTIを解散させてしまい、またIDTechは出向者は不要といって、IBMに対して雇用責任を追及していた二人を解雇する暴挙におよんだわけです。本来、東芝がたもとを分かった時点でIBMがDTIの社員の雇用責任を負担するというのが道理ですが、リストラの先端をゆくIBMはその責任を放棄した訳です。不条理な労働者の使い捨てを断じて許すわけにはいきません。二人のIBMに対する責任追求のたたかいにご支援いただければと願うものです。

解雇闘争の支援のためのカンパをお願いします！

森川さん永井さんの活動日誌より

1月20日 全労連主催の春闘抗議行動及びJMIU(日本金属情報機器労働組合)主催東京、新宿駅ピラ宣伝に参加しました。行動コースは、NTT本社、トヨタ東京本社、丸の内デモ行進、日本経団連、伊藤忠、新宿駅IBMピラ宣伝の順です。トヨタは、日本経団連会長企業で年間1兆1620億円、1日32億円もの利益をあげているにもかかわらず、「ベア要求見送り」の方向です。

新宿駅IBMピラ宣伝では、16時から17時まで、総勢40名で1500枚のピラを配布しました。ピラの内容は、別紙参照。



解雇された二人は自分たちの解雇撤回と同時に社会をよくする草の根運動として鬼になってがんばってます。みなさんのご支援よろしくお願ひします！

追記:裏面の社内失業問題はまだ二名は交渉継続中です。

IBM 社員社内失業問題

IDTech、DTI の出向から IBM へ強制帰任させられた社員、および京セラ SLC テクノロジー（株）への転籍強要に異議を唱えて拒否をした社員はスペシャルプロジェクト課に集められ、長い人で2年近く、短い人でも1年以上も“仕事を取り上げられた”形になっていました。しかしねばり強い交渉の結果、昨年末に会社はようやく社内での職場を提案してきました。場所は関東ですが、大筋、組合・組合員はその提案を受諾し、この問題は収束の方向に向かうことになりました。

今回の職場確保闘争の成果は、

経営方針により、職場がなくなったりしても、次の職場確保の責任は、会社にあることを認めさせたこと

その職場は社内か、関連会社の職場であることを勝ち取ったこと。

また、これらの成果は、以下によってもたらされたものです。

当事者と組合が、一年から二年にわたり粘り強く闘いを継続したこと。あきらめなかったこと。

闘いの中で組合員を増やし、団結を強化したこと。それが、闘いを更に有利に展開する力になったこと。

今後も、会社施策により、今の職場が無くなったりすることが予想されます。過去のリストラの歴史の中で、このような場合、会社は、陰に陽に退職強要を繰り返してきました。その意味で、今回の組合員の闘いは、不十分さは残しつつも、リストラ攻撃を打ち破ったものとして、大きな意義をもつものといえます。

みなさんも組合に加入して一緒にがんばりましょう！



IBM 野洲事業所の昨年一年の主なできごと

ここ一年、工場内各社でたくさんのできごとがありました。

2月12日	DTI を年内に会社清算すると発表。
3月	野洲セミコンダクター 45歳以上転籍プログラムに応募した社員 20名余りがセイコーエプソンへ転籍。
同月	IDT、京セラ SLC テクノロジーへの転籍を拒否した社員を派遣会社メイテックへ強制派遣させる。会社の方針に不満を持った社員が続々と組合へ入会。
4月8日	IBM 労組野洲分会 30名突破記念パーティ
4月30日	退職拒否した DTI の組合員 2名に団体交渉の席で解雇通知が読み上げられる。退職に応じたおよそ 200名も同日付けで自主退職した。
5月	雑誌「週間ポスト」に強制派遣問題の記事が掲載。
6月	工場内で薬液が地下に漏れる。敷地内の地下水は基準を超して一時マスコミ騒ぎになる。会社は社内マニュアル改善。
8月6日	不当解雇撤回闘争支援共闘会議を結成。
9月	不当解雇撤回闘争 大津地裁に提訴。 (これより当月例機関紙を「かがやき」に改名。)
10月	IDTech の資本から IBM が完全撤退、台湾のチーメイの 100%子会社になる。
同月	サンミナ SCI で社員の出向延長の説明あり。同時に e-learning(パソコン通じての教育)がはじまる。
同月	工場内の IBM 本体部門である生産技術開発という組織の中で、検査装置業務のメンバーが、突然社外の会社に出向となる。
11月16日	野洲の組合員による初の大人数ストライキ。
12月	IBM の PC 部門を中国の会社へ売却すると発表。
同月	システムソリューション部門が藤沢へ移転。
同月	健保組合の選挙で組合側の候補が3割を得票。

組合掲示板について

健康管理室前（1号ビル2階社員ルーム前）に組合掲示板が設置され、組合情報を掲示しています。